

## 市町村ワークショップ全体総括

沖縄 21 世紀ビジョン(仮称)の策定にあたっては、アンケート調査により県民の意見・提言を広く募るとともに、県民相互の議論を深めるため、高校生作文コンテストや地域フォーラム、シンポジウム等を開催してきました。

今年度は、これまで実施してきた県民意見の集約に加え、地域住民を交えたワークショップを主な内容とする意見交換会を全市町村で実施しました。

ワークショップでは、市町村職員のほか、NPO法人や地域づくりに関わる協議会、自治会、事業者、PTA、商工会、学生など、幅広い分野の方々に集まっていただきました。

参加者には、5～10名程度のグループに分かれていただき、沖縄の将来を考える上で、何を残し、何を变えていくか、また、それらを残していく、あるいは変えていくためにどのような取り組みが必要かをテーマに意見を出していただきました。

ワークショップに参加された県民は 900 人を超え、それぞれの参加者が主体的に議論に加わることにより、たくさんの意見を聞くことができました。ワークショップを重ねるにつれ、県民共通の価値観や、県民が望む沖縄の将来像が浮かび上がってきました。

### ○自然環境

全ての市町村で、共通して出された意見として、沖縄がもつ豊かな自然環境を 20 年後も残したいということがあった。そのためには、まず開発する地域と保全する地域の区分け(ゾーニング)が必要という意見や、赤土の海域への流出を防止するなどの意見が多く出された。また不法投棄やポイ捨てなどをなくするためには個人の意識を変えていく必要があり、そのためには、自然環境についての知識を身につけることなど、教育上の取り組みが必要という意見もあった。

一方で、これまで、経済成長の過程で失われた自然も多いという意見もあり、昔あった自然を取り戻す取り組みも必要であるという意見も出された。

### ○歴史、伝統、文化

地域には、それぞれ特有の歴史や伝統、文化があり、その中身も地域行事、芸能、音楽、方言、料理(食)、文化財、古武道や祖先崇拜の行事など、非常に多様である。それらは、地域住民にとって心の拠り所となっており、20 年後に残していきたいという意見が多く挙げられた。

歴史、伝統、文化を残していくためには、多くの課題があり、特に離島や過疎化の進む地域では、若者が地域外へ流出していることによる後継者不足や地

域コミュニティの存続が危ぶまれている所もある。課題の解決に向けては、若者の定住促進を進めるとともに、子どもたちに幼少の頃から地域の歴史、伝統、文化について、意味や成り立ちを教え伝えていく必要があるとの意見があった。

また、学校教育の中で教えていくことや、学校と地域の連携を強化すること、地域行事の参加等により、世代間の交流を深めていく必要があるなどの意見もあった。

### ○精神性

ユイマールやイチャリバチャーデーという言葉に象徴されるように、沖縄の人たちには、助け合いや思いやりの心、親しみやすい性格など独特の精神性があるという認識を、多くの県民が持っていることが分かった。人間関係が希薄化している現代においては、そういった沖縄の特性を20年後も残していくべきだという意見が多くあった。

一方で、ウチナータイムやテーゲー主義のように、ルーズな面については、それが沖縄独特の良さであるという意見もある反面で、仕事などの場面では改めていくべきだという意見があった。

### ○地域コミュニティ

各地域における人と人とのつながりにより、前述のユイマールの精神や歴史、伝統、文化が継承されてきたという認識があり、地域コミュニティやその中でつながりを残していきたいという意見が多かった。

そのためには、そこに住民が住み続けられる環境が必要であり、住み続けたいと思うこと、地域に誇りを持つことも必要であるという意見があった。そのためには、まず雇用を生み出すこと、そして地域で様々な行事を行うことや世代間で交流を深めることなどが提案された。

また、そういった地域での様々な活動に多くの人に参加できるような環境づくりとして、ゆとりある生活が必要という意見もあった。

### ○平和

沖縄は、先の大戦で唯一地上戦を経験し、その激戦の記憶や戦跡が残る地域である。戦争の体験者は、高齢化が進み、沖縄が焦土と化した悲惨な記憶も年々薄らいでいる。

体験者の言葉を継承し、戦跡を残していく取り組みが必要という意見や、沖縄が世界における平和の発信地となることを願う意見などがあった。

### ○産業・経済・雇用

雇用を増やす取り組みが必要という意見が非常に多く挙げられた。人が住み続けるために、雇用が必要であり、豊かな生活のために所得を上げていく必要があるという意見が多くあった。

そのための取り組みとして、大規模な企業の誘致や観光産業のさらなる発展のほか、農林漁業やその生産物を加工する製造業などの地場産業の振興、地場産業と観光産業などを連携させた複合型の新たな産業の創出などが挙げられた。

また、産業振興を持続可能な形で進めていくために、それを支える地域特有の自然や文化を残していく必要があるとの意見や、産業・経済を支える人材の育成を強化する必要があるとの意見があった。

## ○風景・景観

沖縄の赤瓦屋根や石積みの塀、ふくぎ並木などの昔ながらの集落景観とともに、商店や市場など沖縄らしい風景を残したいという意見が多くあった。一方で、電線や街路樹などの道路景観、海岸線のコンクリート構造物など、周辺との統一感や調和のない景観については、変えていきたいということだった。

そのためには、景観条例や都市計画など地域ごとのルールづくりにより、計画的に景観づくりを進めることのほかに、電線類の地中化、古民家や空き家を民泊に活用するなどの取り組みが挙げられた。

## ○安全・安心

病院などの医療機関や子育て環境の充実が必要という意見が多く、特に離島や北部の市町村では、医療機関の必要性を強く訴える声が多かった。

また、出産し、子育てをする上で、安全・安心な環境を整えることのほかに、誰にでも優しいバリアフリー化の推進や防災、治安に関する対策なども必要という意見があった。

病院を含めた医療体制を整えるためには、地域の医療機関の存続、医師の確保、ドクターヘリなど救急医療の充実が必要という意見があった。出産、子育て環境の整備では、地域医療機関への産婦人科の設置や維持、安全な住宅環境や公園の整備などが挙げられた。

防災や治安に関する対策としては、地域社会のつながりを再生することが必要という意見もあった。

## ○健康長寿

健康で長寿である沖縄県を残していきたいという意見が多かった。そのための取り組みとしては、家庭菜園などを活用した伝統食の継承、地産地消など食文化の見直しや、夜型社会などの生活習慣の改善、日頃から運動できる環境の

整備、お年寄りには生産活動などを通じた生きがいを進めるなどの対策が挙げられた。

### ○地場産業

農業や漁業、またその加工品の製造や農漁村での観光との連携など地場産業について、さらに発展させたいという意見が多く挙げられた。第一次産業としての農漁業を発展させることは、他産業との連携のほか、地域コミュニティの再生、文化の継承、世代間交流、お年寄りの生きがいなど、生活の様々な面とも関係する。

取り組みとしては、生活していくため、また後継者を確保するためにも、儲かる農漁業の仕組みづくりが重要であり、台風対策や産物のブランド化、地産地消、循環型農業、二次産業や三次産業との連携などが必要との意見が挙げられた。また、持続可能な産業としていくためには、地産地消の推進や循環型農業、学校教育での取り組みなどが必要との意見も挙げられた。

### ○交通

都市部や主要幹線道路などでの交通渋滞や、離島航路及び航空路の不便を解消したいという意見が多くあった。

人口が集中する中南部都市圏では、交通渋滞が大きな課題となっており、鉄軌道の導入やバスなど公共交通機関の利便性向上、車に依存する社会からの脱却、歩行者や自転車に配慮した道づくり、フレックスタイム制の導入など様々な意見が出された。

また、北部市町村や周辺の離島においては、若者の定住化や高齢化の対策として北部圏域から中南部都市圏までの鉄軌道や、離島航路が着く運天港、本部港からの公共交通機関が必要などの意見があった。

離島では、航路や航空路線の維持・拡充や運賃の低減化が必要という意見がかなり多くあった。医療や教育のほか、生活必需品の移入や農産物等の移出などそこで生活していくために、これらの対策が必要であり、定住対策や文化の継承など地域社会のあり方にも直接的に関わってくるということだった。

### ○米軍基地

基地所在市町村においては、基地の早期返還や基地経済への依存から脱却すべきという意見が多くある一方で、基地は無い方がいいが、ある間は、うまく活用したいという意見もあった。

また、基地に面積の大部分が占められている市町村においては、基地への依存意識を改善するとともに、返還跡地を有効に活用するためのビジョンや計画

づくりが必要という意見があった。

### ○過疎化・少子高齢化（定住化対策）

離島や北部町村で多く挙げられたのが、過疎化・少子高齢化が進行する現状から、定住化対策が必要という意見だった。自然環境や景観、伝統文化、地域コミュニティを残していくためには、人が定住することが必要で、そのためにも経済産業を振興し、雇用機会を創出することが必要という意見が多かった。

### ○教育

残すべきもの、変えていくべきものに共通して挙げられたのが、教育や人材育成の取り組みだった。自然環境や景観などを残すこと、または産業を振興し雇用機会を創出していくことなど、残すべきものを残し、変えるべきものを変えていくためには、教育が必要ということだった。

取り組みとしては、自然環境や伝統文化の大切さについては学校教育の中で体験等を通して伝えていくのと同時に、地域に伝わる方言や芸能などについては、お年寄りや大人たちとの世代間交流を通して、地域ぐるみで教え伝えていく必要があるという意見が多くあった。

また、高校等がない小規模の離島では、中学校卒業後進学する場合、島外に出なければならない状況となるため、経済的な負担が大きくなるという現状があり、改善を求める意見が多かった。

次ページに参加者等一覧表あり

ワークショップ参加者等一覧表

市町村名	参加人数	月日	会場	市町村名	参加人数	月日	会場
那覇市	31	7/28	市総合福祉センター	嘉手納町	16	8/3	町役場中会議室
宜野湾市	17	7/30	市中央公民館展示室	北谷町	30	7/14	町役場レセプションホール
石垣市	25	7/15	市役所会議室	北中城村	11	8/25	村役場第二兆者会議室
浦添市	21	8/4	市役所講堂	中城村	27	8/5	村吉の浦会館中会議室
名護市	13	8/18	市役所会議室	西原町	22	7/16	町役場会議室
糸満市	43	7/15	市役所会議室	与那原町	15	7/23	町役場委員会室
沖縄市	32	8/12	市中央公民館研修室	南風原町	26	7/9	町役場庁議室
豊見城市	20	9/4	市役所 6 階ホール	渡嘉敷村	12	8/18	村公民館
うるま市	26	6/3	市保健福祉センター	座間味村	13	7/23	村コミュニティセンター
宮古島市	29	8/18	市中央公民館大ホール	粟国村	12	8/20	村離島振興総合センター
南城市	28	7/9	市役所大ホール	渡名喜村	14	7/14	村老人センター
国頭村	17	6/10	村立保健センター	南大東村	28	8/11	村役場会議室
大宜味村	24	7/30	村農村環境改善センター	北大東村	24	8/12	村人材交流センター
東村	21	8/19	村役場小会議室	伊平屋村	9	12/1	村役場会議室
今帰仁村	32	7/22	村コミュニティセンター	伊是名村	19	8/4	村産業支援センター
本部町	25	7/8	町役場会議室	久米島町	33	7/21	町役場会議室
恩納村	24	7/29	村役場会議室	八重瀬町	36	7/9	町役場会議室
宜野座村	16	6/11	村役場大会議室	多良間村	15	8/17	村中央公民館
金武町	13	8/11	町役場会議室	竹富町	19	7/15	石垣港離島ターミナル
伊江村	24	6/8	村役場会議室	与那国町	14	8/27	町保健センター
読谷村	31	8/3	村役場	合 計	907		